

津田庄右吉 ついで ぢゆうご 國史學者、文學博士。明治八年十月二日岐阜縣生れ、昭和二十六年十一月四日歿（七十三）。講稿又。筆名うだきりきち、鏡。明治二十四年東京專門學校卒。中學校教員を経て、四十二年清鐵（青森清鐵道株式會社）調査部研究員、大正七年早稻田大學教授。昭和十五年著書が發禁となり出版法違反で起訴し、十九年小免訴。（二十一年帝國學士院會員、二十四年文化勳章受章、二十六年文化功勞者。

著書『文學の発展我が國民思想の研究』（武士文學の時代・大正六年一月）『八白、平民文學の時代』上。七年十月一日、中・十年十一月八日洛陽堂）、『神代史の研究』（大正十二年九月）『白岩波書店』、『古事記及日本書紀の研究』（大正十二年九月）『白岩波書店』、『日本上代史研究』（昭和五年四月）『白岩波書店』、『上代日本の社會及び思想』（昭和八年九月）『白岩波書店』、『東洋思想研究』（第一

・昭和十二年）二月二十日、第一・十二年十一月二十日、第二・十五年五月七日、第四・二十五年五月二十五日、第五・二十九年七月二十五日、第六・三十年十一月十七日岩波書店、『早稲田大學東洋思想研究室年報』（『叢山・益軒』（昭和十二年）二月二十日岩波書店、『大教育家文庫』（『儒教の實踐道徳』（昭和十二年）六月十一日岩波書店、『岩波全書』（『支那思想と日本』（昭和十二年）十一月二十日岩波書店

『岩波新書』（『道家の思想と其の展開』（昭和十四年）十一月二十日岩波書店）、『論語と孔子の思想』（昭和二十一年）十一月二十日岩波書店）、『歴史の



矛盾性』（『うだきちきち各、昭和二十二年四月十日大洋出版株式會社

『史苑叢書』、 『日本上代史の研究』 (昭和二十一年九月二十五日
岩波書店)、 『學問の本質と現代の思想』 (昭和二十二年一月二十日
岩波書店)、 『日本古史の研究』 全二冊 (上・昭和二十二年八月二十
日、下・二十五年一月二十日岩波書店)、 『國語の擁護・現代假名遣
ひを駁す』 (合著・國語教育研究所編、昭和二十二年九月十日福井書
房)、 『コニホソノ人の思想的態度』 (つだぎつとみち名、昭和二十二年十
月十五日、上製本・十一月十日中央公論社)、 『マンナムシガム小對決
すゝもの』 批判と反批判』 (同、合著・河野來吉編、昭和二十四年八
月十五日労働文化社)、 『おとひだすまゝ』 (同、昭和二十四年九月
十五日日岩波書店)、 『日本の神道』 (昭和二十四年九月十五日岩波書
店)、 『東北文化史講演集』 (合著、昭和二十四年十一月二十日岩波
中書寺國寶保存後援會)、 『佛敎の研究』 (第一・昭和二十五年二月
二十日、第一・二十五年九月十日、第二・二十一年二月二十日岩波
書店)、 『中書寺と藤原四代』 中書寺藝術調查報告』 (合著、昭和二十
五年八月二十日朝日新聞社編輯)、 『^{文學の}現 代思想の研究』 全
五冊 (第一卷・昭和二十五年七月五日、第二卷・二十八年一月五日、
第三卷・十月二十日、第四卷・二十一年一月二十五日、第五卷・四十年
四月二十日岩波書店。再刊・全八冊・昭和五十一年九月十一日一五十
二年四月十七日「岩波文庫」)、 『日本の皇室』 (昭和二十七年七月
二十日岩波書店「學問の本質と現代思想」)、 『日本主義の研究』 (昭
和二十八年二月二十日岩波書店)、 『歴史の披ひ方』 歴史教育と歴史
學』 (つだぎつとみち名、昭和二十八年七月二十五日中央公論社)、 『シ
ン佛敎の研究』 (昭和二十二年九月二十日岩波書店)、 『左傳の思想

史的研究』(昭和二十二年九月二十日岩波書店)、『歴史學と歴史教
育』(昭和二十四年十一月十八日岩波書店)、『思想・文藝・日本語』

(昭和二十六年三月二十日岩波書店)等。

文獻『津田文庫・清水文庫自録』(昭和二十七年十一月二十日早稲田
大学図書館編刊)、『早稲田大学図書館文庫自録』(、)、『田止臨編』人と
思想 津田左右吉』(昭和四十九年七月二十一日二書房)等。